

投資の勉強会「私立きんゆう女子。学院」

セゾン投信の中野社長が講師に

2016/12/16 5:30 | 日本経済新聞 電子版

女性が中心となって企画した投資の勉強会が、金融機関を巻き込んで活動を始めた。コミュニティー運営事業などを手掛けるTOE THE LINEが女性のための投資の勉強会「私立きんゆう女子。学院」を立ち上げ、セゾン投信の中野晴啓社長、アライアンス・バーンスタインAB未来総研ディレクター兼DC推進室長の後藤順一郎氏を講師に招き、12月11日に開講した。

■兜町の「町おこし」との連携

TOE THE LINEの鈴木万梨子社長は自身がフィンテック関連ベンチャー企業に転職した際に金融知識の不足を痛感した経験から、金融を学び合う女性の交流会として「きんゆう女子。」を立ち上げた。交流サイト

(SNS) による告知やメンバーの紹介などで徐々に規模が拡大し、参加者は195人まで増えた。「参加者の平均年齢は31歳。金融業界で働く人は約2割で、メンバーの多くは金融に詳しくない女性」（鈴木社長）が集まる。

現在は中央区・日本橋兜町の町おこしを手掛ける[平和不動産](#)と東京証券会館内でカフェ、「CAFE SALVADOR BUSINESS SALON」を運営するカフェ・カンパニーの協力を得て、このカフェを拠点に活動中。外部講師を招いての勉強会などでメンバー間の交流を図りながら金融への関心を高め合っているという。

今回、新たに立ち上げた「私立きんゆう女子。学院」は、交流会の「きんゆう女子。」で勉強会を重ねる中で、さらに学習意欲を高めたメンバー向けに開催を決めたもので、20人程度の参加者を対象に実施する。「そもそも投資って何」「金融機関の仕事について」「年金は実際どうなるの」といったテーマの講義や参加者を交えた議論を通じ、参加者が金融知識を身に付けて生活に役立てられることを目指す。参加費は無料だ。



金融について議論する「きんゆう女子。学院」のメンバー



投資教育は社会貢献の一環と語るセゾン投信の中野社長

■商品販売と結び付いた投資教育と一線

「私立きんゆう女子。学院」について中野社長は「企業の代表ではなく、1人の金融マンとして参加する」と話す。[金融庁](#)の行政方針でも投資教育が重点政策となる半面、同氏は投資教育が商品販売に結び付きやすくなっている点を懸念。講師を務めることを「社会貢献活動の一環と考え、一個人として、投資の本質を対話しながら伝えたい」と意気込む。

後藤氏はアライアンス・バーンスタインが2011年から女性を対象とした情報提供に注力してきた経緯から、中野社長の紹介で参画。「きんゆう女子。」の趣旨に賛同し、同社が発行する「お金に強くなるノート」を「教科書」として提供するほか「個人的にも協力したい」と考え、講師を務めることになった。

鈴木社長らは今回の「私立きんゆう女子。学院」を投資教育のトライアルと位置づけ、今後も長期的に女性向けの啓発活動を継続する考えだ。

(R & I ファンド情報編集部)

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.